

## 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

### 1. 学校概要

学校名 滋賀県長浜市立西浅井中学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>

☒ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒529-0704

滋賀県長浜市西浅井町塩津中 312

E-mail nishiazai-ms@nagahama.ed.jp

Website http://nishiazai-ms.nagahama.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 40 名 女子 47 名 合計 87 名

幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～ 15 歳

### 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

### 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「ふるさとを愛し、仲間と共に心豊かでたくましく成長する生徒の育成」を学校教育目標として、ESD を地域学習を通じた環境教育の一環と捉え、ESD の実践を通して環境について考える力や共に協力して問題の解決にあたる力の育成を目標とした。

具体的には、「ふるさと学習」を柱として、①書き損じハガキに係わる活動、②様々な地域教材に係わる学習、③山門水源の森に係わる学習を行った。

#### ① 書き損じハガキに係わる活動

本校では、ユネスコが呼びかけている「世界寺子屋」運動に賛同し、書き損じハガキ回収活動を行っている。この取組は 10 年以上続いている。今年は、2 月 2 日からの一週間に西浅井町の全家庭を自治会生徒会が分担してまわり、書き損じハガキの回収を行った。集まったハガキは、3634 枚、未使用切手は 64 枚である。このハガキは、カンボジアなどのアジア 4 カ国に寄付され、学校建設や教材購入に充てられる。

## ② 様々な地域教材に係わる学習

地域におられる、航空整備士・機関士・操縦士・機長をされ、現在常務取締役運航部長をゲストティーチャーとしてお招きし、対談形式でお話を聞かせていただいた。生徒にとっても地域で活躍されている方がいることがわかり、地域に自信や誇りが感じられたようである。その仕事への姿勢など直接お聞きする中で、キラリと光る生き方について肌で感じ、学べたことが多くあった。直接質問をさせていただいた生徒もあり、生き方について、仕事について、また、パイロットについても色々興味深いお話を聞かせていただくことができた。

## ③ 山門水源の森に係わる学習

山門水源の森についての学習は、「山門水源の森を次世代に引き継ぐ会」の方々に講師としてお世話になり、1年生では自然観察、2年生ではササユリの播種作業、3年生では林床整備を通してふるさとを守り育てることの大切さを学びました。自校教材である「山門湿原を守った生徒たち」の道徳でも、「引き継ぐ会」の方をゲストティーチャーとしてお招きし、体験活動とつなげて、保全活動についての大切さを改めて学ぶことができた。

これらの活動により、このまま人の手が入った湿原や森は、人が入り続けなければ荒れてしまい、生物多様性を保持できなくなることを学んだ。また、「山門水源の森を守っていくのは、次の世代である自分たち」との自覚・認識を高めることができた。



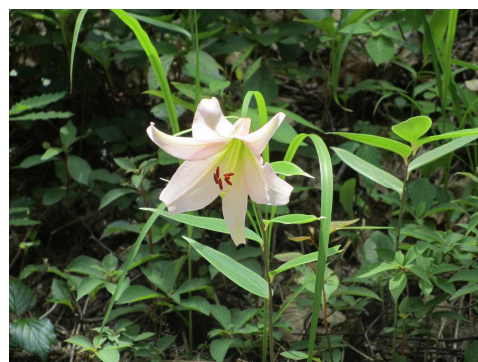
① の写真(書き損じハガキ贈呈式)



② の写真(講師に質問をする生徒)



④ の写真(林床整備の説明を受ける生徒)



③ の写真(山門水源の森のササユリ)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

「山門湿原の森を守った生徒たち」(本校自校教材)
--------------------------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとしての活動は、本校の西中タイム（総合的な学習の時間）の中で、地域教材を取り入れた環境教育の一環として行っている。また、書き損じハガキ回収については、生徒会活動の中で、世界寺子屋運動に賛同するという形で取り組んでいる。

山門水源の森という、本地域にある貴重な自然について、実際に触れて学ぶことができるよう、各学年で森へ行って環境保全についての学習をさせていただいている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

地域教材を取り入れることで、学校として地域と共に子どもを育むという体制を作っている。また、その際に、地域の方々にご協力をいただいて、ゲストティーチャーとして来ていただいている。継続的に取り組めるよう、年間計画の中に位置づけ、全校体制で取り組んでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校活動の評価としては、生徒アンケート・保護者アンケート・教職員アンケートの中で、それぞれ環境学習や地域に関する学習についての項目を設け、その結果によって評価を行っている。成果としては、生徒達の地域について学ぶことを大切だと思っている割合が高いということ。課題としては、総合的な学習時間の時間数が多くなっているということである。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動成果の発信方法としては、学校だよりで環境学習についての取り組みを伝えること。また、報道機関への情報提供を行い、取り組みの内容を新聞やテレビ放送の中で扱ってもらうことを行った。それにより、広く学校の取り組みを発信することができ、保護者にも詳しく取り組み内容について知っていただけた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会との連携によって、山門水源の森について専門的に知っておられる方々から、環境の保全について学習している。ゲストティーチャーとして道德の時間に来ていただくこともある。他にも、地域の貴重な歴史遺産である塩津港遺跡や菅浦文書についても、地域の方にご協力いただいて、講演いただいている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

国内外のユネスコスクールとは、特に現在ネットワーク形成を行っていない。しかし、ユネスコ協会の会報、新聞やテレビでの広報などによって、西浅井中学校での取り組みについて知らせてもらうことで、今後のネットワーク形成における準備を行っている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールの活動による効果については、生徒の地域・地球環境を大切にし、進んで社会に貢献するボランティア精神も育成されている点が大きいです。そのことに対する保護者・地域の評価も高い。本校で続けている「ふるさと学習」を定着させ、より広く発信することに大きな効果があると考えられる。

- （3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 30 年度についても、例年通り山門水源の森における体験学習、保全活動が続けていこうと考えている。また、書き損じハガキの回収や、地域の歴史について学ぶこと、また、地域の方から講演いただくキラリ生き方学習などの学習も引き続き行う予定である。今年度については、西浅井にある菅浦文書が国宝の認定を受けたということで、その学習についてはより深く取り組めるとよいと考えている。

地域と深く関わる内容での学習を進めることで、学校教育目標である「ふるさとを愛し、仲間と共に心豊かでたくましく成長する生徒の育成」の達成に近づけると思われる。